

令和 5 年 4 月 29 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02030

研究課題名（和文）対訳コーパスの開発に向けた日韓中英会計用語データベースの構築

研究課題名（英文）Construction of Database on Japanese-Korean-Chinese-English Accounting Word for Development of Translation Corpus

研究代表者

浦崎 直浩（Urasaki, Naohiro）

近畿大学・経営学部・教授

研究者番号：60203600

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、韓国・中国における商業簿記、工業簿記、原価計算、管理会計、財務会計、租税、企業経営、ファイナンス、その他ビジネス一般に関する専門用語を収集し、それらの日本語および英語による用語と併せて対訳式の日韓中英会計用語データベース（語彙）を構築することを目的として実施された基礎研究である。

その研究成果は、浦崎直浩編著、金鐘勲・朱愷ブン・都相昊・路曉燕著、『英・日・韓・中[対訳]ビジネス会計用語辞典』（同文館出版、2023年5月10日、初版、ISBN978-4-495-21047-2）として出版された。収録された用語は、英語2641語、日本語2822語、韓国語2658語、中国語2727語である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東アジア諸国における会計制度の比較研究を行う場合、日本・韓国・中国の基準書・公表文書・関連論文は、各国の言語が公式の用語であり、各国の研究者が他国の文献を読むことに限界があった。勿論、英文ジャーナルにより各国の状況を知ることができる。しかし、母国語を英語に翻訳する過程において英語で通用するように意識がなされることがある。翻訳された英語表記から当該会計事象の元の言語表記を類推できないという難点がある。研究成果である対訳ビジネス会計用語辞典は、そのような限界を克服し、東アジア諸国における学術研究やビジネスの交流発展に寄与し、会計制度の比較研究における相互理解がより一層高まることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This research was conducted to collect technical terms related to commercial bookkeeping, industrial bookkeeping, costing, management accounting, financial accounting, standards setting, taxation, corporate management, finance and other general business in Korea and China, and to develop the translation corpus of English-Japanese-Korean-Chinese terminology consisting of the above collected terms.

The accomplishment of the research was published as a dictionary named “Comparative Business Accounting Dictionary in English, Japanese, Korea, and Chinese” by DOBUNKANSHUPPAN in Tokyo, on the 10th of May 2023 for the first print. Authors of the dictionary are Naohiro Urasaki(editor), Jong-Hoon KIM, Kaiwen Zhu, Sangho Do, and Xiaoyan Lu. The ISBN of the dictionary is 978-4-495-21047-2. The published each number of four language terminology is English 2641words, Japanese 2822words, Korean 2658words, Chinese 2727words.

研究分野：会計学

キーワード：ビジネス会計用語辞典 対訳コーパス 会計制度の国際比較 会計コミュニ ケーションの促進 日韓中3カ国におけるビジネス会計の相互理解 translation corpus accounting terminology IFRS

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、対訳コーパスの開発に向けて、韓国・中国における会計及び監査の専門用語を収集し、それらの日本語及び英語による用語と併せて対訳式の日韓中英会計用語データベースを構築することを目的とする。日本・韓国・中国における基準書・公表文書は、各国の言語が公式の用語であり、各国の研究者が他国の文献を読むことに限界があった。

本研究はそのような現状を改善することを課題に、すでに韓国啓明大学校と中国中山大学の研究者とネットワークを築き、収集を終えた財務会計用語(3,488語)について対訳の妥当性・合理性の検証をはじめている。科学研究費補助金により、韓国・中国の会計監査文献の収集、各国用語の対訳の検証のための研究会が可能となり、データベース構築の研究が格段に進捗することになる。研究成果は、四言語対訳コーパスの将来的な開発の基礎となるものであり、研究者を目指す学生、大学研究者、現地駐在の実務家、会計専門職等の利用が期待され、東アジア諸国間の企業会計に関する学術研究と交流の促進に寄与するものである。

日本において会計学の分野における日韓中英四カ国語対訳コーパスの研究は皆無であり、その基礎となる用語の集成は、先行研究として下掲の徳賀他(2013)のみである。本研究は、徳賀他(2013)では十分に盛り込まれていないIFRSの用語を網羅的に収集している点に、本研究の意義や貢献があるものと考えられる。なお、日本語と韓国語の一般生活用語の対訳コーパスの例として次の研究がある。

『(Constructing the database of Japano-Korean Vocabulary)』
(The National Institute of the Korean Language), 2012.

本研究で完成した日韓中英会計用語データベースは、日本人研究者のみならず、韓国語及び中国語並びに英語を母語とする研究者が、日韓中英の会計専門用語を検索し研究に役立てる研究基礎資料として重要な位置づけを得るものと評価できる。また、当該データベースは、将来、研究成果として出版することを考えている。さらに、本研究の延長として、日韓中英四カ国語対訳コーパスの開発とネット上での公表・運用を視野に入れている。

2. 研究の目的

東アジア諸国における会計制度の国際的研究を行う場合、日本・韓国・中国における基準書・公表文書・関連論文は、各国の言語が公式の用語であり、各国の研究者が他国の文献を読むことに限界があった。指摘するまでもなく、会計制度の国際的研究については、英文ジャーナルにより各国の状況を知ることができる。しかし、母国語を英語に翻訳する過程において英語で通用するように言い換え等がなされ直訳されないことがある。翻訳された英語表記から当該会計事象の元の言語表記を推測できないということである。各国の会計制度で採用されている専門用語は、その国の文化的・社会的要因と結びついて、独自の用語体系が築かれている。その一例が、取引である。取引は、韓国語で去來(가매, gorae)、中国語で交易(jiāoyì)と表記される。同じ漢字文化圏でありながら、英語のtransactionに相当する表現が異なっている。

すでに言語学や医療の分野では、多言語対訳コーパス研究の相当の蓄積があり、国立国語研究所では「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス」(2000年)というデータベースが公表されている。また、医療分野では、医療に関する正確な多言語用例対訳を収集・共有し、多言語用例対訳共有システムTackPadで情報を提供することにより、外国人患者の支援が行われている。かかるシステムは、医療従事者と患者との正確なコミュニケーションを可能とし、意思疎通が十分に行えないことによる医療ミス発生リスクを低減させることに効果を上げている。

本研究の究極的な課題とする対訳コーパス(translation corpus)とは、言語学における研究や自然言語処理における機械翻訳の学習データとして利用するために構築された、異なる言語を対訳で集成したデータベースを意味する。会計学の分野では、従来、日本語と英語の対訳については用語辞典等で研究の膨大な蓄積がみられるが、日本語と韓国語並びに中国語の相互の会計用語データベース構築に関する研究は、徳賀芳弘・蔡揚宗・崔鐘序・曲曉輝『日・英・中・台・韓5カ国語会計・会計学用語辞典』(税務経理協会、2013年)のみである。本研究では、それには十分に盛り込まれていない監査用語及びIFRSによる財務諸表の表示科目の用語を網羅し、現在利用できる文献で収集した英語と韓国語の対訳、英語と中国語の対訳、韓国語・中国語と日本語の対訳の合理性・妥当性を逐一検証し、日韓中英会計用語データベースを構築し、東アジア諸国の学術研究・交流の促進に寄与する対訳コーパスを開発することに研究課題の核心をなす学術的問いがある。

3. 研究の方法

本研究課題は、対訳コーパスの開発に向けて、韓国・中国における商業簿記、工業簿記、原価計算、管理会計、財務会計、基準設定、租税、監査、企業経営、ファイナンス、マーケティング、貿易、法律、経済、その他ビジネス一般に関する専門用語を収集し、それらの日本語および英語による用語と併せて対訳式の日韓中英会計用語データベースを構築することを目的として実施された基礎研究である。

会計学分野では、従来、日本語と英語の対訳については用語辞典等で研究の膨大な蓄積があるが、日本語、英語、中国語、台湾語、韓国語の会計用語に関する研究は、徳賀芳弘・蔡揚宗・崔鐘序・曲曉輝『日・英・中・台・韓5カ国語会計・会計学用語辞典』（税務経理協会、2013年）のみであった。本研究課題では、先行研究を参考にしつつ、学術研究やビジネス現場での利用を念頭に、日本語・韓国語の大学テキスト・ビジネス書、各国会計基準書、公表されたIFRS関連資料等から最新の用語までの収集を行い、4言語対訳の正確性・合理性に関する検討を重ね必要と判断した用語を残して『英・日・韓・中[対訳]ビジネス会計用語辞典』（同文館出版、2023年5月10日、初版、ISBN978-4-495-21047-2）を出版した。

4. 研究成果

研究成果は、浦崎直浩編著、金鐘勲・朱愷ブン・都相昊・路曉燕著、『英・日・韓・中[対訳]ビジネス会計用語辞典』（同文館出版、2023年5月10日、初版、ISBN978-4-495-21047-2）として出版された。収録された用語は、英語 2641 語、日本語 2822 語、韓国語 2658 語、中国語 2727 語である。

東アジア諸国における会計制度の比較研究を行う場合、日本・韓国・中国の基準書・公表文書・関連論文は、各国の言語が公式の用語であり、各国の研究者が他国の文献を読むことに限界があった。勿論、英文ジャーナルにより各国の状況を知ることができる。しかし、母国語を英語に翻訳する過程において英語で通用するように意識がなされることがある。翻訳された英語表記から当該会計事象の元の言語表記を類推できないという難点がある。研究成果であるビジネス会計用語辞典は、そのような限界を克服し、東アジア諸国における学術研究やビジネスの交流発展に寄与し、会計制度の比較研究における相互理解がより一層高まることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浦崎直浩・金鐘勲・朱愷ブン・D0 Sangho・LU Xiaoyan	4. 巻 記念号
2. 論文標題 日韓中英会計用語データベースの構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営イノベーション研究所設立10周年記念論集	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 浦崎直浩	4. 巻 201
2. 論文標題 任璟宰の簿記書の周辺－『徴文七十年史』管見－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 342-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦崎直浩	4. 巻 196
2. 論文標題 任璟宰『最近商業簿記』の特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 135-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浦崎直浩
2. 発表標題 収益認識の会計・税務に関する研究
3. 学会等名 税務会計研究学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 河崎 照行（浦崎直浩）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 496
3. 書名 会計研究の挑戦 - 理論と制度における「知」の融合（第3章 企業業績の認識メカニズムの展開）	

1. 著者名 橋本尚（浦崎直浩）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同文館出版（株）	5. 総ページ数 524
3. 書名 現代会計の基礎と展開（第7章 任環宰『新編銀行簿記學』の背景と体系）	

1. 著者名 浦崎直浩、金鐘勳、朱愷ブン、都相昊、路曉燕	4. 発行年 2023年
2. 出版社 同文館出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 英・日・韓・中〔対訳〕ビジネス会計用語辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	金 鐘勳 (Kim Jong-Hoon) (10801566)	専修大学・商学部・講師 (32634)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	Zhu KaiWen (Zhu KaiWen) (10824162)	沖縄大学・経法商学部・准教授 (38002)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	都 相昊 (Do Sangho)		韓国啓明大学校経営大学教授
研究 協力者	路 晓燕 (Lu Xiaoyan)		中国中山大学管理学院副教授

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関